

ソノマ大学夏期語学研修報告 (期間: 2015年7月8日~8月15日)

2015年7月8日(水)から8月15日(土)にかけて、医学部第1学年伊藤さよりさん、島田真武さん、菅原大二郎さん、谷本ひかりさん、土田和奈さん、永澤慶太郎さん、野田真友子さん、プランティリアまやさん、吉岡慎平さん、渡部瑛恵さんの10名が、提携校のカリフォルニア州立ソノマ大学で5週間の語学研修プログラムに参加した。

(国際交流センター)

文化の違いを肌で感じた5週間

つちだ かずな
土田 和奈 (医学部第1学年)

研修に参加した一番の目的は英語に触れることでした。英語が元々好きでしたが、話すことに抵抗があったので、強制的に話さなければならない状況に身を置きたいと思いました。また旅行ではなく、その土地に滞在することで経験できることや学べることがあり、様々な知識を吸収することも重要だと考えました。

授業は、読み、書き、文法、英会話のクラスが必修で、私はその他に映画とスラングの授業を選択しました。コミュニケーションの授業ではアメリカに来て感じた自分の国との違いについて話し合ったり、プレゼンテーションを一人で行いました。スラングの授業では、スラングを使った会話を作成したり、絵を使って相手にその言葉の意味を説明するなど、会話をしながら覚えていくことが多かったです。映画の授業では、実際に映画を観ながら映画の隠れた意味を解釈するなど、私の一番お気に入りの授業でした。

大学の企画したアクティビティでは、サンフランシスコ観光に参加し、ユニオンスクエア周辺で買い物を楽しみ、ロンバート・ストリートという紫陽花がきれいな丘を登り、ゴールデン・ゲート・ブリッジを渡りました。個人の観光ではなかなかできなかった経験だと思います。また、ホストファーザーが昔 coast guard で働いていたこともあり、8月4日に行われた「アメリカ沿岸警備隊設立記念日」に参加できたことが印象的でした。実際に使われているヘリコプターに乗ることもでき、貴重な体験になりました。

結果として、リスニング能力は向上したように感じましたが、話すことについてはあまり変わらなかったように思います。英語を上達させるには5週間ではとても短いと感じました。初めは、英語の勉強を頑張ろうという意気込みで行きましたが、ソノマ大学で出会った韓国人の友人に「5週間は短いから、英語を上達させることよりも、外国人の姿勢や態度を学ぶべきだよ。日本人は

恥ずかしがりすぎる」と言われたことがとても印象的で、自分の考えが変わるきっかけの一つになったと思います。間違えることを恥ずかしいと思うより、とりあえず何とか話そう、伝えようという気持ちが強くなり、少しですが自分の授業に対する姿勢を変えられたように思います。また、暮らしてみても初めてわかることも多く、文化の違いなどを肌で感じられた充実した5週間でした。

今回の研修でより英語を好きになり、上達したいという思いが強くなりました。アメリカでは、相手の話していることは理解できても、自分の伝えたい思いをなかなか正確に伝えることができず、悔しい思いを何度もしました。そのため、自分の伝えたいことを不自由なく話せるように、英語を話す努力を続けていきたいです。また、外国人の授業への積極的な姿勢、わからないことや異なる考えを恥ずかしがらずに相手に発言できる態度を見習い、より多くのことを学べるようになりたいと思います。自分から積極的に物事を学び取る姿勢は、学生であっても医師になってからも必要なスキルであると考えからです。これから英会話を上達させて、高学年になったときには海外医学研修に参加できたらと思います。



修了式にて。前列左から島田さん、野田さん、伊藤さん。中列左から永澤さん、菅原さん、谷本さん、渡部さん、プランティリアさん。後列カリフォルニア州立ソノマ大学語学学校スタッフ